

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加納高等学校 学校運営協議会（ゆめ会議かのう）（第1回）
- 2 開催日時 令和5年 6月 5日（月） 13：30～15：00
- 3 開催場所 加納高等学校 校長室
- 4 参加者 会長 高橋 利行 前岐阜協立大学副学長
副会長 富樫 幸一 岐阜大学名誉教授
委員 小島 紀夫 （公財）岐阜県教育文化財団総合プロデューサー兼支配人
嘉根 礼子 サラマンカホール支配人
杉本 昭一 アデコ株式会社ソリューションセールス事業部マネージャー
藤田 洋子 PTA 副会長
水野 律子 加納まちづくり会会長
竹内 正伸 加納西自治会連合会代表

学校側	高橋 宗彦	校長
	向田 富紀子	教頭
	松井 由香	事務部長
	林 圭子	教務部長
	藤田 英博	総務運営部長
	堤 寛司	総務運営部担当

5 会議の概要（協議事項）

（1）加納高校の現状について

（2）学校運営について

○普通科、音楽科、美術科のあり方

意見1：出願が減少傾向にあるため、音楽科としての魅力づくりをしていかなければいけないのではないか。魅力づくりの1つとして教員の確保がある。

意見2：音楽科の生徒が美術科の授業を受けて単位を取得することはできないか。

⇒ 現在は、科を超えての単位習得をすることはできない。

意見3：デジタルの部分がどのように美術に取り入れられているか。

⇒ MacPCを導入した。今後、さらに増台し、デジタルアートへの活用も考えている。

意見4：縦と横のつながりをなくし、多くの視点から、自分の将来について考えていけるような取り組みにしていってほしい。自分の興味を自分の言葉で語ることが大切。

意見5：学校が教育委員会と協力をして、学校と社会が繋がり、生徒が社会に出ていくことができるような場を作っていってほしい。

○学校運営全体について

意見1：スクールポリシーを知っている生徒はどれくらいいるか。

生徒が大切にしていることと、学校側が大事にしていることにズレはないか。

運営側の与えたい教育と生徒側の与えてもらいたい教育をニアリーイコールにする必要がある。今後は越境した学びが大切になる。

⇒ スクールポリシーが生徒から見たらどのように感じるかを知る機会をつくる。課題を絞って生徒にディスカッションをしてもらう。

意見2：ヘルメットの着用推進のため、校則化の検討をお願いしたい。生徒から意見を聞き、加納高校で生徒自身がかぶりたいヘルメットを作成してみたらどうか。

⇒ 生徒がかぶりたいヘルメットをデザインしてみないかと生徒に提案してみる。

意見3：相談室を利用すること自体を躊躇する生徒がいる。日常から教員と生徒間の中で相談出来る雰囲気づくりが必要である。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。

本日得られた、貴重な意見・助言は、職員会議等で全職員に伝え、今後の学校運営の在り方について、検討し次回に提案を行う。